

- I. 豊橋市自然史博物館研究報告の投稿については、本規定の定めるところによりこれを行う。
7. 数量を表わす数字はアラビア数字とする。

II. 一般的な事項

1. 原稿は原則として自然史または博物館活動に関係あるもので、次の項目に当たるものとする。
- ①郷土の自然史に関するもの。
 - ②当館に標本・資料が収蔵される場合。
(例：新種記載に関してタイプ標本等を収蔵)
 - ③当館の行う調査研究に関係するもの。
 - ④既に当館に収蔵されている標本に関係するもの。
 - ⑤当館学芸員の研究活動に関係するもの。
 - ⑥その他編集委員会が適当と認めるもの。

2. 原稿には次の種類がある。

原著 (Original article)
概説 (Review)
短報 (Short note)
記録 (Record)
雑録 (Miscellany)
その他

3. 言語は日本語または英語とする。

III. 日本語の原稿

A. 原稿の構成

1. 原稿には、表題、著者名、所属する機関または連絡先、並びにその英訳を書く。
2. ランニング・タイトル (簡略化した論文表題、20字以内) とキーワード (英訳をつける) をつける。
3. 原著論文には英語の要旨 (Abstract) および 400 字程度の和文要旨をつける。和文要旨には、著者名・和文タイトルをつける。

B. 文章と文体

1. 文体はひらがな漢字まじりの口語体 (である調) とし、現代かなづかいを用いる。漢字は常用漢字とするが、固有名詞や慣用語はこのかぎりではない。
2. 句読点は、コンマ (,) とピリオド (.) を用いる。アルファベット・数字は半角文字とする。
3. 本文中 (謝辞を除く) の人名には敬称をつけない。
4. 漢字あるいは外国語で読み誤るおそれのあるものにはふりがなをつける。
5. 数量の単位には慣用の単位記号を使う (例: km, °C, mg)。
6. その他の略語も慣例にしたがう (例: ca., etc. など)

C. 書き方

1. 原稿はワープロソフトを使用し、A4 判に横書き 24 字 × 45 行 (刷り上がりの 1/2 ページ分) で右側に 8 cm 程度の余白をとって作成する。
2. 英文フォントは Times New Roman, 和文フォントは MS P 明朝をなるべく用いる。イタリック体や太字体は、それぞれの字体を指定する (下線を引く必要はない)。

D. 引用文献

1. 引用文献は論文末に一まとめにし、著者名のアルファベット順に並べる。同じ著者のものは年代順にする。雑誌名は略さない。

例:

Aitken, M. J., 1985. *Thermoluminescence dating*. Academic Press, London, 359 p.

Bell, T. H. and Johnson, S. E., 1989. Porphyroblast inclusion trails: the key to orogenesis. *Journal of Metamorphic Geology*, 7: 279–310.

茅原一也, 1989. 飛騨外縁帯ならびに三郡変成帯のヒスイ輝石岩の構造的意義. 地質学論集, (33): 37–51.

林 隆夫・川邊孝幸, 1993. 古琵琶湖層群と段丘堆積層・沖積層. 市原 実 (編), 大阪層群, 創元社, 東京, 158–168.

Mason, B., 1966: 松井義人・一国雅巳訳, 1970. 一般地球化学. 岩波書店, 東京, 402 p.

Richter, G. and Seapy, R. R., 1999. Heteropoda. Boltovskoy, D. (ed.), *South Atlantic Zooplankton*, Backhuys Publishers, Leiden, 621–647.

Wakabayashi, F., 1987. Determination of major and trace elements in nine Japanese geochemical standard rock samples by instrumental neutron activation analysis. *Bulletin of the National Science Museum, Series E*, 10: 13–19.

Wakabayashi, F., 1988. Neutron activation analysis of Japanese standard rock samples II. *Bulletin of the National Science Museum, Series E*, 11: 9–16.

2. オンラインジャーナルでデジタルオブジェクト識別子 (DOI) が付与されているものは DOI を付記する。

例:

Apotsos, A., Gelfenbaum, G. and Jaffe, B., 2011. Process-based modeling of tsunami inundation and sediment transport.

(ii)

Journal of Geophysical Research, 116: F01006. <https://doi.org/10.1029/JF001797>

3. ウェブサイトから引用する場合は、公的機関のページに掲載されたPDFファイルなど、公表された年が判明しており、掲載内容が固定的で十分な期間存続するものについては引用文献に含める。

例：

愛知県環境部, 2015. 第三次レッドリスト レッドリスト あいち 2015. 48 p. http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/yasei/redlist/redlist_2015.pdf (2018年3月31日閲覧).

4. ウェブサイトからの引用のうち、上記に該当しないものについては、引用文献に含めず本文中にURL、確認した日付を示す。

E. 図・表

1. 図は、鮮明に印刷できるように十分な解像度で作成する（印刷時のサイズで600 dpiを目安とする）。また、本報告の印刷面の横が16.5 cm、縦が24 cmであることに留意し、図をつくること。希望のサイズがある場合は、指定すること。
2. 図の内容の大きさを示すには、図にスケールを入れる。
3. 表は枠組みの中に活字（文字と記号、縦・横の実線、点線、鎖線、波線など）で組めるものにかぎる。
4. 図・表にはそれぞれ通し番号を記す。表1、図2ではなく、第1表、第2図を用い、本文中の引用もそれに従う。一つの付図を構成する個々の図を標記する場合にはピリオドを付記してさらに番号を加え、特に標本写真など同一個体の別写については、小文字アルファベットを付加する。

例：

第1.3a – 1.3c 図（和文）

Figs. 1.3a – 1.3c（英文）

5. 図・表の原稿は1図・1表ごとに別につくる。
6. 図、表の説明文は別のページに番号順に書き、原著論文には和英両方をつける。原著論文以外は日本語で書き、著者の判断で英文を加えることができる。

IV. 英文の原稿

1. 英文原稿は語学的に難点のないよう、著者の責任で完全なものにする。
2. 原稿には日本語による表題、著者名、要旨（400字程度）をそえる。

3. ランニング・タイトル（簡略化した論文表題、50字以内）とキーワード（日本語訳をつける）をつける。

4. 日本語、漢字による地名、人名、地層名などをローマ字書きするときは、その原名を明らかにするのがのぞましい（脚注もしくは巻末に一括）。よく知られているものは省略してよい。

5. 英文以外の言語で書かれた論文を引用した場合には、文献リストの論文名末尾にカッコ書きで付記する。

例：（in Russian with English abstract）

V. 原稿の投稿および受付・受理

1. 投稿を希望する者は、原稿を原稿整理カードとともに、電子メールに添付するか、CD-R等の記録媒体に入れて郵送するかのおいずれかの方法で、編集委員会宛に提出する。原稿締め切りを原著は10月31日、その他は11月30日とし、編集委員会が受け取った日を受付日とする。なお、投稿規定にそっていない原稿は、受け付けない。

（原稿送付先）

〒441-3147 豊橋市大岩町字大穴1-238

豊橋市自然史博物館

豊橋市自然史博物館研究報告編集委員会

電子メール：sizensi@toyohaku.gr.jp

2. ファイル形式は以下のとおりとする。

本文：Microsoft Word ファイルまたはPDF ファイル

表：Microsoft Word ファイルまたはMicrosoft Excel
ファイル、PDF ファイル

図：JPEG などの画像ファイルまたはPDF
ファイル、EPS ファイル

3. 投稿された原稿の採否は、原著論文については査読者の意見に基づいて、その他のものについては編集委員会が決定する。編集委員会は原稿の内容について、著者に訂正・再検討を求めることがある。また、必要があれば、字句の添削・修正をすることがある。

4. 最終原稿が提出され、編集委員会によって掲載が認められた日を受理日とする。

VI. 校正

1. 著者校正は、初校のみとする。再校正以後は編集委員が行う。

2. 校正の際には大きく書きかえ、また、新たにつけ加えることは原則として許されない。

VII. 著作権

1. 出版された論文の著作権は、豊橋市自然史博物館に帰属する。

VIII. 追補

1. 原稿を作成するに当たって行われた調査研究は、法令等を遵守し適切な方法でなされたものでなくてはならない。
2. 学名の使用や命名法的行為を含む論文については、最新の国際動物命名規約、国際藻類・菌類・植物命名規約、国際原核生物命名規約、国際鉱物学連合の新鉱物・鉱物命名委員会の決定を遵守し、またその勧告を尊重したものでなくてはならない。
 - 1) 動物に関する命名法的行為を含む論文の著者は、国際動物命名規約勧告 8A を尊重し、新しい学名や命名法上の行為を Official Register of Zoological Nomenclature (ZooBank) に格納すること。
 - 2) 菌類に関する命名法上の新提案およびタイプ指定に影響する命名法上の行為を含む論文の著者は、国際藻類・菌類・植物命名規約に従って、論文中に MycoBank 等の認定された学名登録機関により与えられた学名の識別子 (ID) を明記しなければならない。
3. 論文中に使用された研究成果の証拠標本、分布・生態の記録資料については、将来の検証を容易にするため、登録番号等により明確に識別できるようにし、豊橋市自然史博物館又は他の公的機関に収蔵・保存されることが望ましい。

附 則

この規定は、平成 2 年 9 月 30 日から施行する。

附 則

この規定は、平成 13 年 1 月 27 日から施行する。

附 則

この規定は、平成 21 年 3 月 31 日から施行する。

附 則

この規定は、平成 22 年 3 月 26 日から施行する。

附 則

この規定は、平成 30 年 3 月 24 日から施行する。

附 則

この規定は、令和 2 年 2 月 1 日から施行する。

附 則

この規定は、令和 3 年 3 月 19 日から施行する。

豊橋市自然史博物館研究報告原稿整理カード

発 送 日		受 付 日		査読完了日		受 理 日	
年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日	
著 者 氏 名	漢 字						
	ローマ字						
連絡責任者 氏 名 連 絡 先	〒						
	Tel. () - Fax. () - E-mail:						
表 題	和 文						
	英 文						
ランニングタイトル							
キ ー ワ ー ド							
K e y w o r d s							
種別 (○で囲む)		原著, 概説, 短報, 記録, 雑録, その他					
原 稿	本文 (和文・英文) _____ 枚						
	図 _____ 枚, 表 _____ 枚, 図・表説明 _____ 枚 Abstract _____ 枚, 和文要旨 _____ 枚						
別 刷	希望部数 _____ 部 (無料分については, 校正時にお知らせします。無料分を超えた分は有料となります。)						
そ の 他							

※太枠の部分は記入しないで下さい。